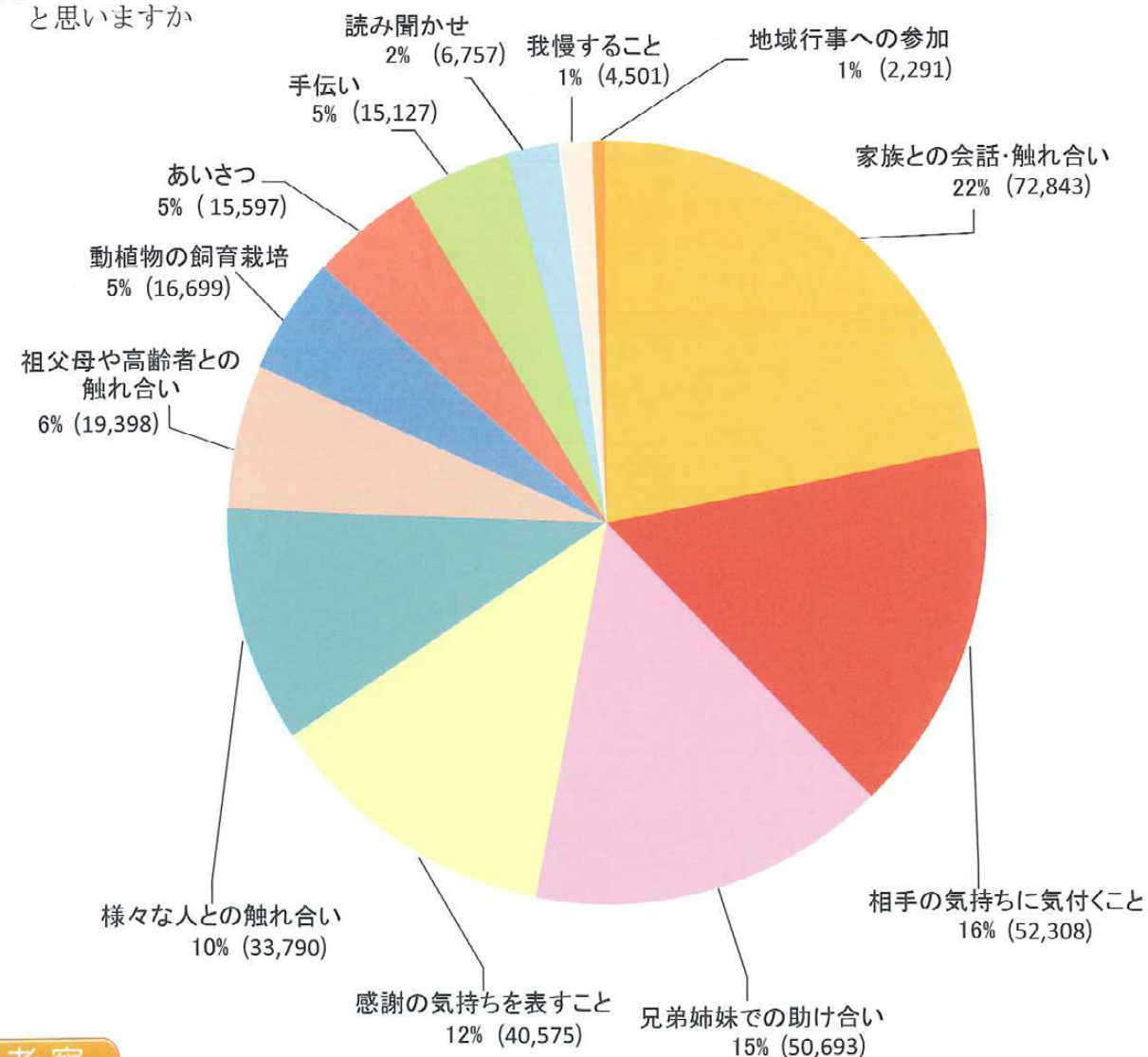


全国アンケート結果について

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会加盟園の保護者の方々に、幼児期に思いやりの心を育むには、家庭と幼稚園において、どのような経験や指導が大切かを尋ねました。以下にその結果をご報告します。

設問1. お子さんに「思いやりの心を育むために、ご家庭ではどのような経験が必要だと思いますか」



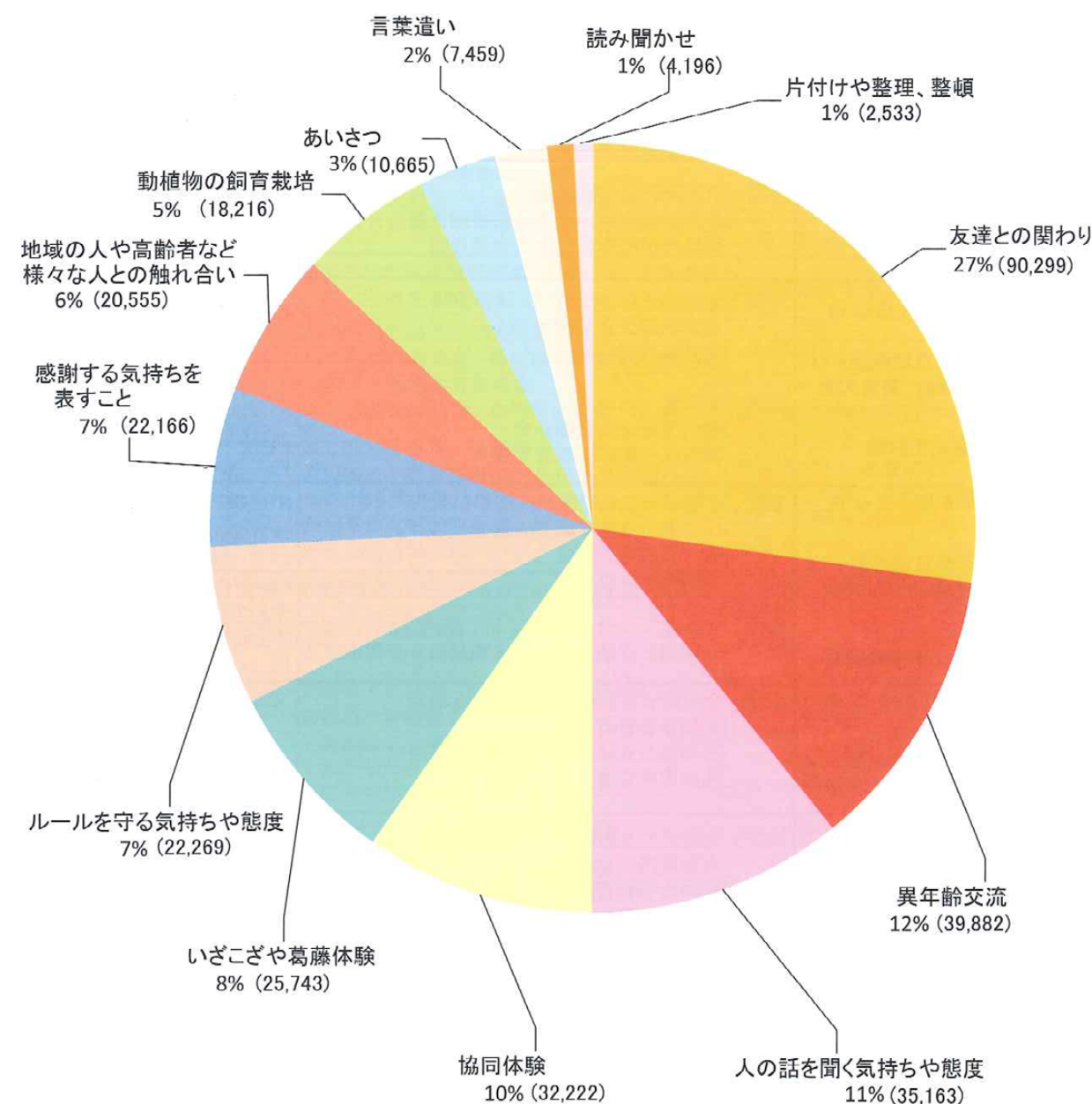
考察

○設問1、設問2のいずれも、上位から下位までの順位はどの都道府県でもほぼ同じで、地域間での差は、ほとんど見られなかった。国公立幼稚園の保護者の意識や考え方は、全国的にほぼ同じであると考えられる。

設問1について

- ・思いやりの心を育むには、1. 家族との会話・触れ合い 2. 相手の気持ちに気付くこと 3. 兄弟姉妹での助け合いの順で大切であるという結果となった。社会を形成する最小単位である家族の中での会話や触れ合いは、人への信頼感を培い、優しさや思いやりを醸成するものであり、保護者もそのことを重視しているものと思われる。
- ・相手の気持ちに気付くことは、思いやりの気持ちを育む基盤であること、また、相手の気持ちに気付くには、自己を発揮しながら相手にかかわることで得られていくことなどが大切であるということを保護者も認識しているのではないかな。
- ・兄弟姉妹が少なくなっている中でも、その間で助け合う経験を積むことが思いやりの心を育むと考えていると思われる。

設問2. お子さんが通っている幼稚園で「思いやりの心」を育むために指導していただいている事柄の中で、どのような内容が大切だと思いますか



設問2について

- ・保護者は、思いやりの心を育むには、幼稚園では、“友達とのかかわり”が重要であるという意見が約三分の一を占めている。また、異年齢交流が次に続いている。合わせると半数近くを占めており、このことは、少子化や核家族化、メディア社会の進化等により人とのかかわる機会の減少、人とのかかわる力の劣化等が危惧されていることが背景にあるのではないかな。
- ・“人の話を聞く気持ちや態度”が3番目、“協同体験”が4番目であり、人とかかわりの中で重視したい経験内容があげられている。国公立幼稚園では、幼児が自己発揮をしながらも、その表現力を豊かに高める一方で人の話を聞く気持ちや態度の醸成や協同体験を大切に指導していくことが大切である。